



# Java Desktop System 2003 ご使用 にあたって

---

Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054  
U.S.A.

Part No: 817-4570-10  
2003 年 12 月

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。Contains Macromedia Flash Player technology by Macromedia, Inc., Copyright© 1995-2002 Macromedia, Inc. All rights reserved. Macromedia, Flash and Macromedia Flash are trademarks or registered trademarks of Macromedia, Inc. in the United States and internationally.

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DtComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: *Java Desktop System 2003 Release Notes*

Part No: 817-3690-10

Revision A



031207@7518



# 目次

---

はじめに	5
<b>Java Desktop System 2003 ご使用にあたって</b>	<b>9</b>
既知の問題点	10
Java Desktop System 2003 のマニュアル	19
各言語版のユーザーマニュアルへのアクセス	19
時刻の設定方法	20
YaST2 オンラインアップデート	21
アップデートサーバーのプロキシ構成	21
アップデートサーバーのローカル構成	21
オンラインアップデートモード	21
Ximian Evolution 1.4 に関するよくある質問 (FAQ)	22
Mozilla 1.4 用のプラグイン	24
Java プラグイン	24
その他のプラグイン	24
サポートする言語とサポートしない言語	25
サポートしていないアプリケーション	25
サポートしていない Sun 以外のアプリケーション	27
サポートしていないゲーム	27
カスタマサポート	28
インストールと構成のサポート契約	28



## はじめに

---

このリリースノートには、Java™ Desktop System 2003 に関する情報が記載されています。このドキュメントは、Java Desktop System をインストールする前にお読みください。

---

## 関連マニュアル

次に、このマニュアルに関連するマニュアルを示します。

- 『Java Desktop System 2003 クイックスタート・ユーザーズガイド』
- 『Java Desktop System 2003 インストールガイド』

---

## 参考マニュアル

次に、このマニュアルの参考になるマニュアルを示します。

- 『GNOME 2.2 デスクトップ *Accessibility Guide*』
- 『GNOME 2.2 システム管理 (*Linux* 版)』
- 『GNOME 2.2 ユーザーズガイド (*Linux* 版)』
- 『StarSuite 7 Office Suite インストールの手引き』
- 『StarSuite 7 Office Suite ユーザーズガイド』
- 『Ximian Evolution 1.4 ユーザーズガイド *Sun Microsystems Edition*』

---

# Sun のオンラインマニュアル

docs.sun.com では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URL は、http://docs.sun.com です。

---

## 表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上的コンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上的コンピュータ出力と区別して示します。	<code>system% su</code> <code>password:</code>
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	<code>sun% grep '^#define \</code> <code>XV_VERSION_STRING'</code>

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

---

## 一般規則

- このマニュアルでは、英語環境での画面イメージを使っています。このため、実際に日本語環境で表示される画面イメージとこのマニュアルで使っている画面イメージが異なる場合があります。本文中で画面イメージを説明する場合には、日本語のメニュー、ボタン名などの項目名と英語の項目名が、適宜併記されています。



# Java Desktop System 2003 ご使用にあたって

---

Java Desktop System 2003 は、その大部分がオープンソースソフトウェアをベースに作成された、デスクトップソリューションを提供します。

本書に記載されている内容は、次のとおりです。

- 10 ページの「既知の問題点」
- 19 ページの「Java Desktop System 2003 のマニュアル」
- 20 ページの「時刻の設定方法」
- 21 ページの「YaST2 オンラインアップデート」
- 22 ページの「Ximian Evolution 1.4 に関するよくある質問 (FAQ)」
- 24 ページの「Mozilla 1.4 用のプラグイン」
- 25 ページの「サポートする言語とサポートしない言語」
- 25 ページの「サポートしていないアプリケーション」
- 27 ページの「サポートしていない Sun 以外のアプリケーション」
- 27 ページの「サポートしていないゲーム」
- 28 ページの「カスタマサポート」

本書の最新のバージョンについては、<http://docs.sun.com> を参照してください。

---

## 既知の問題点

以下の表は、このリリースの Java Desktop System における既知の問題点と回避策を示しています。

トピック	既知の問題点
アプリケーション	<ul style="list-style-type: none"><li>■ システムのリブート後、Java Desktop System にログインするとき、パネルがクラッシュして即座に再起動する可能性があります。</li><li>■ Solaris™ オペレーティング環境用の GNOME 2.2 デスクトップのホームアカウントで設定されたユーザー環境設定は、Java Desktop System 上の GNOME 2.2 デスクトップと完全に互換ではない可能性があります。</li><li>■ ネットワーク接続にモデムを使用しており、ダイヤルアップ PPP 接続を必要とする場合は、Linux PPP ダイアラーコマンドユーティリティの <code>wvdial</code> を使用してください。</li><li>■ ドキュメントを所有するアプリケーションが URL で渡されたファイル名引数を処理できない場合に、NFS または Samba でマウントされたディレクトリからそのドキュメントを開こうとするとファイルマネージャはエラーを表示します。 たとえば、StarSuite™、OpenOffice、vi、acroread、および ggview などのアプリケーションは URL を処理できないため、これらのアプリケーションで NFS ファイルを開こうとするとファイルマネージャはエラーを表示します。 同様の問題が Samba (SMB) でマウントされたディレクトリ上のファイルでも発生します。このようなファイルを開くには、まず、Samba または NFS ディレクトリ以外のローカルディレクトリにファイルをコピーしてください。</li><li>■ サウンドレコーダに関する問題<ul style="list-style-type: none"><li>■ 新しい .wav ファイルを録音するとき、スライドバーとタイムカウンタが動作しません。録音が行われていることを示す表示もありません。</li><li>■ サウンドレコーダの同じインスタンスでは、.wav ファイルを複数回再生できません。回避策としては、サウンドレコーダの別のインスタンスを開いて、.wav ファイルを再生してください。</li></ul></li><li>■ Sun Ray™ クライアントまたは Solaris マシンから Java Desktop System にログインした場合、キーボードで L キーを押すたびに、バックスペースが挿入されます。次の 2 つの回避策があります。<ul style="list-style-type: none"><li>■ Java Desktop System にログインした後で、<code>xmodmap</code> コマンドを使用して L キーを再定義します。</li><li>■ Java Desktop System に <code>root</code> としてログインし、<code>/etc/X11/Xmodmap</code> ファイルを削除します。</li></ul></li></ul>

トピック	既知の問題点
アプリケーション (続き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一部の Red Hat Package Managers (RPM) は、マシンにインストールされている Linux リリースを認識しない可能性があります。これらの RPM ファイルをシステムにインストールしようとする、インストールに失敗する可能性があります。RPM ファイルをシステムに正常にインストールするためには、特定の Linux のバージョンが <code>/etc/SuSE-release</code> に記載されている必要があります。回避策として、Linux のバージョンを RPM が認識するバージョンに変更します。たとえば、SuSE Linux 8.1 (i386) Version=8.1 にしてください。</li> </ul>
時計の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 時計アプレットはシステムクロックから時刻を取得し、その後、ハードウェアクロックから時刻を取得します。しかし、パソコンをシャットダウンすると、ハードウェアクロックはシステムクロックと時刻の同期をとることができません。 システムクロックの時刻を変更するには、端末で root になり、date コマンドを実行します。date コマンドを使用してシステムクロックの時刻を設定した場合、その時刻はハードウェアクロックには設定されません。システムをリポートするたびに時計アプレットに表示される時刻は、前に date コマンドを使用して何を設定したかに関係なく、ハードウェアクロックで設定された時刻になります。ハードウェアクロックの時刻が間違っている場合は、システムをリポートするたびに時計アプレットにも間違った時刻が表示されます。 ハードウェアクロックの時刻を変更するには、次のようにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ BIOS 設定画面に入って、時刻を直接変更します。</li> <li>■ <code>/sbin/hwclock</code> ユーティリティを使用して、時刻を変更します (ただし、このユーティリティはサポート対象外です)。</li> </ul> Java Desktop System での時刻設定の詳細については、20 ページの「時刻の設定方法」を参照してください。 </li> <li>■ YaST2 設定ツールでは、次の方法でシステムクロックのタイムゾーンを設定できます。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. YaST2 を起動します。</li> <li>2. 左区画で「<b>System</b>」をクリックします。</li> <li>3. 右区画で「時間帯の選択」をクリックします。</li> </ol> この手順を実行すると、画面下のメニューから GMT を示す「世界協定時間 (UTC)」と「地方時間」を選択できます。「世界協定時間 (UTC)」を選択した場合、「地方時間」が「ヨーロッパ/英国」に設定されている場合には、相違が生じます。この場合、システムクロックの時刻は、常に地方時間より 1 時間前に設定されます。 </li> </ul>
ヘルプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ このリリースの Java Desktop System には、GNOME フリーソフトウェアコミュニティから入手したヘルプマニュアルを持つアプリケーションが含まれています。Sun Microsystems は、これらのヘルプマニュアルの完全性や正確性については責任を持ちません。</li> </ul>

トピック	既知の問題点
各国語化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ このリリースの Java Desktop System には各言語版のアプリケーションが数多く含まれていますが、これらは GNOME コミュニティが開発したものをそのまま使用しています。Sun Microsystems は、これらの各言語版アプリケーションの完全性や正確性については責任を持ちません。</li> <li>■ 日本語 IME、かな (canna) および kinput2 を必要とする単語を変換するときに、変換した単語の色を前編集領域で反転させることはできません。</li> <li>■ Evolution には、作成中のメールの文字セットを設定するためのオプションがあります。このオプションにアクセスするには、「ツール」→「設定」→「コンポーザの設定」→「一般」を選択します。選択した文字セットは、作成中のメール内のテキストの本文にのみ適用されます。文字セットは、「件名」フィールドや、添付ファイルのファイル名には適用されません。Evolution は、「件名」フィールドと添付ファイルのファイル名に対して、異なるコードセット検出メカニズムを使用します。 たとえば、「コンポーザの設定」文字セットを UTF-8 に設定し、ISO-8859-1 文字セットを使用してメールを送信した場合、「件名」フィールドは ISO-8859-1 文字セットに設定され、メールテキストの本文は UTF-8 エンコーディングに設定されます。一般的なメールクライアントのほとんどは、ISO-8859-1 や ISO-8859-15 などのエンコーディングを扱えず、「件名」フィールドに表示されるテキストが文字化けします。 回避策として、MIME 文字セットをすべて認識できるメールクライアントを使用してください。</li> <li>■ 日本語のロケールでは、Evolution は、デフォルトで UTF-8 形式でメールを送信します。日本語のロケールで ISO-2022-JP 形式のメールを送信するには、「ツール」→「設定」→「コンポーザの設定」→「一般」で、文字セットを ISO-2022-JP に変更する必要があります。</li> </ul>

トピック	既知の問題点
各国語化 (続き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ GNOME デスクトップ ユーザーインターフェースメッセージのほとんどは、香港ロケールでは翻訳されていません。たとえば、Big5HKSCS と UTF-8 ユーザーインターフェースメッセージは両方とも英語で表示されます。zh_HK.big5hkscs ロケールにログインして、GNOME テキストエディタを起動すると、すべてのメニュー項目は英語で表示されます。回避策として、/usr/share/locale/zh_HK ディレクトリを /usr/share/locale/zh_TW ディレクトリのシンボリックリンクに変更してください。次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. root としてログインします。</li> <li>2. 次のコマンドを入力します。 <pre style="margin-left: 40px;">cd /usr/share/locale /usr/bin/rm -rf zh_HK ln -s zh_TW zh_HK</pre> </li> </ol> </li> <li>■ 日本語ロケールでは、gdk+ の「ファイルを開く」ダイアログが現在の文字コードでファイル名を表示できません。また、Nautilus では、現在の文字コードでファイル名を入力できません。回避策として、次の手順を実行してください。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ja_JP.eucJP と ja_JP.SJIS に対して G_BROKEN_FILENAMES=1 を設定します。</li> <li>2. アプリケーションを再起動します。</li> </ol> </li> <li>■ 日本語 IME では、Evolution のメール「メッセージを作成します」の本文に日本語文字セットを正しく入力できない場合があります。回避策として、文字化けしているテキストを削除して、再度入力してください。</li> <li>■ 日本語テキスト文字列を日本語 IME で変換する場合、Evolution は、そのテキストの色を前編集領域で反転させることができません。</li> <li>■ Java Desktop System をインストールするときにインストール言語として「English」を選択した場合、簡体中文および繁体中文パッケージはデフォルトでインストールされません。特定の言語パッケージをインストールする場合、インストール作業中に、適切な言語を「言語の選択」ダイアログから選択する必要があります。</li> <li>■ Nautilus を使用して、NFS または Samba などのネットワークファイルシステムに日本語のファイル名をドラッグ&amp;ドロップでコピーすると、ファイル名は文字化けします。この問題は、ja_JP.eucJP および ja_JP.SJIS などの非 UTF-8 ロケールで発生します。どのロケールでも、ドラッグ&amp;ドロップで作成したファイルは、Nautilus ウィンドウで削除することはできません。回避策として、端末ウィンドウを使用して、ファイルをコピーまたは削除してください。</li> </ul>

トピック	既知の問題点
各国語化 (続き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Java Desktop System をインストールしたあと、デフォルト言語は locale.UTF-8 ではなく locale@euro に設定されます。たとえば、システムプロンプトで locale コマンドを入力すると、Java Desktop System のイタリア語版は it_IT@EURO を返します。したがって、Mozilla を開くと、Mozilla アプリケーションのイタリア語版は表示されません。また、StarSuite は拡張文字を含む構成キー文字またはファイル名を表示しません。回避策として、次の手順を実行してください。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Java Desktop System からログアウトします。</li> <li>2. イタリア語オプションを選択します。</li> <li>3. Java Desktop System にログインします。</li> </ol> この操作により、ロケールは it_IT.UTF-8 に設定されます。Mozilla はイタリア語版が表示され、StarSuite は拡張文字を正しく表示します。また、構成キーのシーケンスは正しく動作します。 </li> <li>■ RPM を CD からマルチユーザーモードでインストールすると、システムは CD を自動的に排出しません。eject cdrom コマンドを入力して、CD を取り出します。</li> <li>■ Java Desktop System 構成ユーティリティ YaST2 は、Java Desktop System のインストールを行なったロケール以外では、各国語化されていないように見えます。ほかのロケールでも YaST2 が対応する言語で表示されるようにするには、追加の言語パッケージをインストールする必要があります。次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. システムプロンプトで、yast2 コマンドを入力します。</li> <li>2. 「ソフトウェア」を選択します。</li> <li>3. 「ソフトウェアのインストール/削除」を選択します。</li> <li>4. 「フィルター」ドロップダウンリストから「検索」を選択します。</li> <li>5. 「検索」フィールドに yast2-trans と入力して、「検索」ボタンをクリックします。</li> <li>6. リストから希望する言語パッケージを選択し、「了解」をクリックします。</li> </ol> </li> </ul>

トピック	既知の問題点
Mozilla	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Mozilla の実行中にシステムがクラッシュ、あるいは間違っ てシャットダウンした場合、Mozilla はプロファイルロック ファイルをクリアできません。システムをリブートし て、Mozilla を起動した後、次のような警告を示す ダイアログが表示されます。 Mozilla cannot use the profile because it is in use. (Mozilla はそのプロファイルを使用できません。原因： そのプロファイルはすでに使用されています。) Please choose another profile or create a new one. (別の プロファイルを選択するか、新しいプロファイルを 作成してください。) 回避策として、ファイル \$HOME/.mozilla/&lt;profilename&gt;/&lt;random&gt;/lock を 手動で削除してください。</li> <li>■ Linux パッケージファイル (.rpm) への Web ページ リンクをクリックすると、Mozilla がクラッシュし ます。Mozilla はすべての .rpm ファイルを RealPlayer メディアとして登録しています。RealPlayer プラグインは無効な .rpm ファイルを正しく処理 できないため、Linux パッケージファイルを直接 クリックすると、Mozilla がクラッシュします。回 避策として、.rpm リンクを右クリックしてメ ニューから「Save Link Target As...」を選択し てください。</li> <li>■ ポート 2628 がファイアウォールによって許可 されていない限り、ファイアウォール経由で gdict サーバーに接続することはできません。</li> <li>■ Pentium 4 などのハイパースレッド対応のプロ セッサを使用している場合は、カーネルモジュール のコンパイル時にバージョン不整合のエラーが発 生することがあります。この不整合を修正するに は、次の手順を実行します。 1. 次のファイルを編集します: /usr/src/linux- 2.4.19.SuSE/linux/version.h 2. 行 #define UTS_RELEASE "2.4.19-4GB" を #define UTS_RELEASE "2.4.19-64GB-SMP" に変更し ます。</li> <li>■ Blueprint Beta のテーマは、評価用のみで す。Blueprint Beta のテーマは通常 の環境で使用しないでください。この テーマには既知のバグがあり、サポ ートされていません。Blueprint Beta のテーマを評価する場合は、「表示」 →「Apply Theme」→「Blueprint Beta」 を選択します。</li> <li>■ ほかのアプリケーションから Mozilla にテキストをコピーする場合、正しく テキストを貼り付けるには、Ctrl + V キーを一度押して、キーを即座に放 します。テキストを貼り付けたあと即 座に Ctrl + V キーを放さないと、 Mozilla はクラッシュします。</li> <li>■ 発色数を 256 色 (8 ビット) に設定 した場合、テキストは Flash 6 では 表示されません。回避策として、発 色数を 16 ビット以上に設定して ください。</li> <li>■ Mozilla でシステムプロキシ設定 を使用する場合、「Launch」→「設定」 →「インターネット」設定で「socks host」を設定しないでください。 Mozilla メールは、socks サーバー 経由でインターネットメールサーバ に接続できません。</li> </ul>

トピック	既知の問題点
ネットワーク プレイス	ネットワークプレイスを追加した場合、 <b>Network Places</b> ウィンドウに新しいネットワークプレイスを表示させるには、ログアウトしたあと再び Java Desktop System にログインする必要があります。
プリンタ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ YaST2 を使用すると Java Desktop System にプリンタを追加または変更できます。しかし、Evolution や gedit などの GNOME アプリケーションでは、印刷キューとの統合が完全には実装されていません。プリンタ設定を変更して新しいプリンタを追加するには、「Launch」→「設定」→「プリンタ」を選択します。</li> <li>■ Samba プリンタを設定するときには、SMB 印刷キュー用のユーザー名とパスワードを入力する必要があります。ユーザー名とパスワードは暗号化されずに /usr/cups/printers.conf ファイルに格納されます。このファイルは、root の読み取り専用ですが、root のアクセス権を所有する人であれば、このファイルに格納されているユーザー名とパスワードを読み取ることができます。 セキュリティ問題のリスクを減らすために、SMB 印刷キューにアクセスするときに使用するユーザー名とパスワードは、印刷キュー専用のものにしてください。こうすることによって、セキュリティ問題のリスクを「承認されていないユーザーが SMB プリンタを使用するかもしれない」ということだけに限定できます。</li> </ul>

トピック	既知の問題点
Ximian Evolution 1.4	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="634 373 1427 642">■ PalmOS デバイスと Pilot アプリケーションの同期を構成するには、gpilotd デーモンが起動されており正しく動作していることを確認する必要があります。「パイロットの設定」ダイアログを開いて、gpilotd デーモンを起動します。gpilotd デーモンが動作しているかどうかを確認するには、Pilot アプレットをパネルに追加して、gpilotd デーモンの活動を表示します。 Pilot の設定についての詳細と、Evolution に関するよくある質問とその回答については、22 ページの「Ximian Evolution 1.4 に関するよくある質問 (FAQ)」を参照してください。</li> <li data-bbox="634 646 1427 856">■ PalmOS デバイスと Java Enterprise System サーバーを同期する前に、Evolution で Java Enterprise System フォルダをクリックしてください。PalmOS デバイスと Java Enterprise System フォルダを同期させるには、Java Enterprise System フォルダをデフォルトフォルダとして設定する必要があります。PalmOS デバイスの「hotsync」ボタンをクリックする前に、Java Enterprise System フォルダをクリックしてください。このようにしないと、同期中に Evolution が正しく動作しない可能性があります。</li> <li data-bbox="634 861 1427 976">■ 「タスク」フォルダにタスクが何もないと、「切り取り」、「コピー」、「貼り付け」コマンドは無効化されます。「切り取り」、「コピー」、「貼り付け」コマンドを有効にするには、タスクを作成し、タスクリストでタスクを強調表示する必要があります。</li> <li data-bbox="634 980 1427 1066">■ Evolution は、Ctrl + V キーを押しても、「メッセージを作成します」の「件名」フィールドの内容を貼り付けません。回避策として、Shift + Insert キーを使用し「件名」フィールドの内容を貼り付けてください。</li> <li data-bbox="634 1071 1427 1257">■ Java Enterprise System アカウントでは、Evolution GUI を使用して繰り返しのインスタンスを変更または削除することはできません。現在、Java Enterprise System カレンダーサーバーは、既存の繰り返しに対するインスタンスの削除または変更をサポートしていません。イベントを繰り返しに変更したあと、そのイベントを繰り返しでない状態に戻すことはできません。</li> </ul>

トピック	既知の問題点
Ximian Evolution 1.4 (続き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ タイムゾーンに関する問題 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Java Enterprise System サーバーのタイムゾーン このタイムゾーンを設定するには、Web GUI の Calendar Express を開いて「オプション」→「設定」→「タイムゾーン」を選択します。</li> <li>■ システムのタイムゾーン このタイムゾーンを設定するには、YaST2 を起動して左区画で「<b>System</b>」をクリックし、次に右区画で「時間帯の選択」をクリックします。</li> <li>■ Evolution のタイムゾーン 最初のユーザーは、Evolution Setup Assistant を使用してタイムゾーンを設定できます。タイムゾーンは、「ツール」→「設定」→「カレンダーとタスク」→「一般」→「タイムゾーン」を選択して変更することもできます。 Evolution が正しく機能するためには、タイムゾーンは相互に一致していなければなりません。 Evolution のオプションのタイムゾーンと、Java Enterprise System カレンダーサーバーのオプションのタイムゾーンは同じではありません。 Evolution のみに存在するタイムゾーンを扱うときに、タイムゾーンの相違により問題が生じることがあります。 たとえば、「アジア/ウルムチ」タイムゾーンは、Evolution では利用できますが、Java Enterprise System カレンダーサーバーでは利用できません。新しい予定を「アジア/ウルムチ」タイムゾーンで作成した場合、Evolution は Java Enterprise System カレンダーサーバー上でデフォルトとして設定されているタイムゾーンで予定を保存します。</li> </ul> </li> <li>■ ローカルフォルダでは、カレンダーはローカルフォルダ内のタスクを表示します。Java Enterprise System フォルダでは、Personal Calendar は、「設定」でデフォルトのタスクフォルダとして設定されているタスクフォルダを表示します。「設定」のデフォルトのタスクフォルダを変更するには、Evolution を再起動して変更を有効にする必要があります。</li> <li>■ 繰り返しする予定のためのプレビュー区画は、ローカルカレンダーフォルダと Java Enterprise System カレンダーフォルダとは動作が異なります。ローカルフォルダの場合、単純な繰り返し予定を開いて繰り返しタブに移動します。このタブのプレビュー区画が有効になります。Java Enterprise System フォルダの場合、ローカルカレンダーの繰り返し内の単一インスタンスを編集することはできないため、繰り返し予定のプレビュー区画は無効になります。</li> </ul>

トピック	既知の問題点
Ximian Evolution 1.4 (続き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現在、Java Enterprise System カレンダでは、1つのイベントに対して1つのリマインダしかサポートされません。ただし、ローカルカレンダについては、1つのイベントに対して複数のリマインダを追加できます。</li> <li>■ PGP/GPG キーでメールに署名する場合、次のようなエラーが発生する可能性があります。 <pre>Failed to GPG sign: Broken pipe gpg:'&lt;KEY&gt;' をスキップ: 秘密鍵が得られません gpg: signing failed:秘密鍵が得られません</pre> このエラーを回避するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. \$HOME/.gnupg/gpg.conf を開きます。</li> <li>2. use-agent 行をコメントにします。</li> </ol> </li> </ul>

## Java Desktop System 2003 のマニュアル

Java Desktop System のマニュアルの PDF および HTML バージョンは、次の場所にあります。

- 付属の Documentation CD
- <http://docs.sun.com>

### 各言語版のユーザーマニュアルへのアクセス

各言語版の『GNOME ユーザーズガイド』および『クイックスタート・ユーザーズガイド』のほとんどは、GNOME ヘルプブラウザに表示されません。ユーザーマニュアルの各言語版は付属の Documentation CD または <http://docs.sun.com> から表示できます。

Documentation CD から各言語版のユーザーマニュアルを表示するには、次の手順を実行します。

- Documentation CD をシステムの CD ドライブに挿入します。
- HTML ブラウザで README.html ファイルを開きます。
- README.html の指示に従って、言語、トピック、希望するマニュアルを選択します。

<http://docs.sun.com> から各言語版のユーザーマニュアルを表示するには、次の手順を実行します。

- 次のページを開きます。  
<http://docs.sun.com>
- 言語選択ボタンから、希望の言語を選択します。

言語選択ボタンは、そのページの「**Search/browse within**」領域の隣にあります。

- 希望のマニュアル名を「検索」フィールドに入力します。
- 表示されたリストから、希望のマニュアルを選択します。

---

## 時刻の設定方法

以下の手順は、Java Desktop System での時刻の設定方法について説明しています。

1. root としてログインします。
2. 「Launch」 → 「設定」 → 「System」 を選択して、「タイムゾーン」をクリックします。
3. 「root のパスワード」ダイアログに root のパスワードを入力します。
4. 自分の地域のタイムゾーンを選択します。
5. ハードウェアクロックを地方時間に設定するか、世界協定時間 (UTC) に設定するかを選択します。世界協定時間 (UTC) を選択した場合、夏時間 (Daylight Savings Time) はその地域に合わせて調整されます。サポートされていない別のオペレーティングシステムとのデュアルブートでシステムを設定している場合、ハードウェアクロックは地方時間に設定するようにしてください。
6. 時刻は次の方法で設定します。
  - a. 「Launch」 → 「アプリケーション」 → 「システム」 → 「端末」 を選択します。
  - b. su コマンドを使用して、root としてログインします。
  - c. date -s コマンドを使用して、日付文字列を入力します。

日付文字列とは、C ロケールでの date コマンドの出力形式の文字列です。例:

```
date -s Wed Oct 29 16:11:16 GMT 2003
```

NTP (Network Time Protocol) サーバーにアクセスできる場合は、次の例で示すように ntpdate コマンドを使用してタイムゾーンを設定し、時計を同期させます。

```
ntpdate -b sunswiss.swiss.sun.com
```
  - d. 次のコマンドを使用して、ハードウェアクロックと UNIX クロックを同期させます。

```
hwclock --systohc
```

---

## YaST2 オンラインアップデート

この節では、YaST2 オンラインアップデートを使用して、アップデートサーバーから Java Desktop System のパッチとアップデートをダウンロードする方法について説明します。

### アップデートサーバーのプロキシ構成

次の手順は、YaST2 オンラインアップデートのプロキシ構成の実行方法について説明しています。この手順を実行するには、root のアクセス権が必要です。

1. 「Launch」 → 「設定」 → 「System」 を選択します。
2. 「ネットワーク設定」をダブルクリックし、「ネットワークプロキシ」をダブルクリックして、「プロキシの設定」ダイアログを表示します。
3. オンラインの指示に従って、必要なプロキシ構成の詳細を入力します。
4. 「完了」をクリックします。
5. ログアウトし再びログインして、これらの設定を有効にします。

典型的な http プロキシ設定は、`http://<proxy_name>:port` です。たとえば、`http://proxy_provider.com:3128` です。

### アップデートサーバーのローカル構成

アップデートサーバーのローカル構成は、次のように行います。

1. `/etc/sysconfig/onlineupdate` を開きます。
2. `YAST2_LOADFTPSEVER` を No に設定します。

この構成により、アップデートサーバーは `/etc/suseservers` から取得されるようになります。

### オンラインアップデートモード

オンラインアップデートモードには、手動と自動の 2 つがあります。推奨するアップデートモードは自動です。希望するオンラインアップデートのモードを選択してください。自動モードでは、以前にインストールされているパッケージが、アップデートサーバー上の利用可能なすべてのパッチで更新されます。アップデートサーバーで利用可能な新規のパッケージは、自動オンラインアップデートモードではインストールされません。

手動モードでは、インストールするパッチを選択できます。以下の状況では、手動モードをお勧めします。

- 新しいパッケージをインストールする場合
- インストール済みのパッケージの一部を最新のパッチで更新する場合

## Ximian Evolution 1.4 に関するよくある質問 (FAQ)

次の表は、Ximian Evolution 1.4 に関するよくある質問とその回答を示しています。

質問	回答
Pilot の設定方法を教えてください。	PalmOS の同期とそれに関する設定については、Pilot Configuration Help (Pilot 構成に関するヘルプ) を参照してください。
Evolution から Pilot にアクセスする方法を教えてください。	「ツール」 → 「パイロットの設定」を選択します。
同期の間、「パイロットの設定」ダイアログを開いたままにしておく必要がありますか。	いいえ。しかし、gnome-pilot プロセスがアクティブであり、適切に機能していることを確認する必要があります。
Evolution の Pilot でサポートされる PalmOS の種類を教えてください。	PalmOS 5 シリーズです。
PalmOS デバイ스에接続できません。なぜですか。	ファイルのアクセス権を調べてください。PalmOS デバイスはデフォルトのままでは機能しません。使用可能なデバイスを選択していることを確認してください。例:  USB の場合は <code>ttyUSB0</code> 、シリアルクレードルの場合は <code>ttyS0</code> です。
PalmOS は USB デバイス経由で Java Desktop System 上の Evolution と接続できますか。	はい。しかし、USB 経由で PalmOS と接続すると、パソコンのパフォーマンスが著しく低下します。
USB 経由での同期の間、何らかの問題が発生する可能性がありますか。	同期の間、PC が動作しなくなる可能性があります。たとえば、Caps Lock LED や Scroll Lock LED が点滅します。考えられる理由は、USB モジュール、カーネル、あるいは、ハードウェアに関連する問題です。
PalmOS のデータをパソコンにバックアップしたいのですが。	パイロットの設定ダイアログから「 <b>Conduits</b> 」タブを選択して、「 <b>Backup (バックアップ)</b> 」オプションを有効にします。

質問	回答
Evolution を使用してパソコンから PalmOS にバックアップファイルをコピーしたいのですが。	Pilot を使用すると、パソコンから PalmOS にバックアップファイルを復元できます。また、次のようなコマンドラインツールも使用できます。 <code>gnome-pilot-install-file/pilot-xfer</code> 。
Evolution はカテゴリの同期をサポートしますか。	Evolution の Conduits はカテゴリの同期をサポートしません。
Java Enterprise System アカウントと PalmOS デバイス間でデータを同期できますか。	はい。ただし、デフォルトカレンダーとタスクフォルダを Java Enterprise System フォルダに設定する必要があります。Evolution から「ツール」→「設定」→「Folder Settings」→「Default Folders」を選択します。
Evolution は、どのように PalmOS デバイスと同期しますか。	Evolution は PalmOS と直接には通信できません。Evolution は、Pilot のプラグインとして動作する Conduits を使用します。Pilot は、PalmOS デバイスと通信します。
Evolution と Pocket PC 間でデータの同期をとることはできますか。	いいえ。Evolution と Pocket PC 間ではデータの同期を直接とることはできません。しかし、Sync や MultiSync などのオープンソースツールを使用すれば、Evolution のアドレス帳の同期をとることができます。
「Send Link (リンクを送信)」や「Send Page (ページを送信)」をクリックしたときに Evolution が起動しないように Mozilla を構成したいのですが。	次のいずれかのファイルを開きます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <code>\$HOME/.mozilla/&lt;profilename&gt;/&lt;random&gt;/prefs.js</code></li> <li>■ <code>/usr/lib/mozilla-1.4/defaults/pref</code></li> </ul> 次の行を変更する必要があります。 <pre>pref("network.protocol-handler.external.mailto", true)</pre> この行を次のように変更します。 <pre>pref("network.protocol-handler.external.mailto", false)</pre>
Evolution を使用して、Java Enterprise System アカウント用にプロトコル設定を修正したいのですが。	Java Enterprise System サーバーが http プロトコルを使用している場合に、Java Enterprise System アカウント設定で誤って https プロトコルを選択すると、Evolution を使用して「設定」からプロトコルを修正できません。  この問題に対する回避策として、Java Enterprise System フォルダを右クリックして、メニューから「 <b>Forget Password</b> 」を選択してください。Evolution を再起動して、「 <b>Enter Password</b> 」ダイアログを取り消します。以上で正しいプロトコルを「設定」で選択できるようになります。
CDE カレンダーアプリケーションで Evolution を使用できますか。	いいえ。Evolution は Java Enterprise System カレンダーサーバーにのみ接続できます。

---

# Mozilla 1.4 用のプラグイン

この節では、Mozilla 1.4 のプラグインについて説明します。

## Java プラグイン

Mozilla 1.4 では、Java プラグインはデフォルトで有効です。Java プラグインが機能しない場合、`/usr/lib/mozilla/plugins` ディレクトリにシンボリックリンクを作成し、次のファイルを参照する必要があります。

```
$JAVA_PATH/plugin/i386/ns610-gcc32/libjavaplugin_oji.so
```

---

注 - `libjavaplugin_oji.so` ファイルにシンボリックリンクを作成する代わりに、このファイルをコピーすることはしないでください。このファイルをコピーした場合、Java がクラッシュします。

---

`/usr/lib/mozilla/plugins` ディレクトリ内にあるすべての Java プラグインをインストールします。

## その他のプラグイン

以下に示す他社製のプラグインも Mozilla 1.4 で利用可能です。

- Adobe Acrobat Reader
- Macromedia Flash Player
- RealPlayer

Mozilla プラグインについての詳細は、次の場所を参照してください。  
<http://plugindoc.mozdev.org/linux.html>

---

## サポートする言語とサポートしない言語

次の表は、このリリースの Java Desktop System でサポートする言語とサポートしない言語を示しています。

サポートする言語	サポートしない言語
英語	日本語
フランス語	韓国語
ドイツ語	
イタリア語	
スペイン語	
スウェーデン語	
簡体字中国語	
繁体字中国語	

---

注 - ポルトガル語 (ブラジル)、ポーランド語、およびロシア語については、ユーザーインターフェースだけがサポートされます。

---

---

## サポートしていないアプリケーション

次の表に、Java Desktop System のアプリケーションのうち、Sun がサポートしないアプリケーションを示します。

サポートしていないアプリケーション	説明
Diagrams and Flowcharts (グラフとフローチャート)	グラフとフローチャート作成ツール

---

サポートしていないアプリケーション	説明
Image Editor (画像エディタ)	画像を編集する GNU 画像処理プログラム
Digital Camera (デジタルカメラ)	画像を管理するデジタルカメラユーティリティ
Image Organizer (画像編集)	画像のサムネイルをデスクトップに表示する画像ビューアとブラウザ
Video Conferencing (ビデオ会議)	テレビ会議アプリケーション
Project Manager (プロジェクト管理)	プロジェクトとスケジュールの管理ツール
Movie Player (ムービープレイヤー)	動画を再生できるマルチメディアプレイヤー
Text/Source Editor (テキスト/ソースエディタ)	プログラマのための汎用的な拡張可能なエディタ
Dictionary (辞書)	単語の定義および正確なスペルを調べることができるオンライン辞書
Diagram Editor (図形エディタ)	フローチャート、地図、UML 図など、数多くの図を作成できるダイアグラム描画エディタ
Disk Analyzer (ディスクアナライザ)	ディスクの中身を視覚的に表示できるディスク解析プログラム
Weather Report (天気予報)	さまざまな地域の現在の天気状況を表示できる天気予報プログラム

---

## サポートしていない Sun 以外のアプリケーション

次の表に、Java Desktop System のアプリケーションのうち、Sun がサポートしない Sun 以外の製品を示します。

Sun 以外の製品	説明
Adobe Acrobat Reader	PDF (Portable Document Format) 形式のファイルを表示できる
Macromedia Flash Player	Web 上で対話的にマルチメディアを再生できる
RealPlayer	一般に使用されている、さまざまな形式のメディアファイルを再生できる

---

## サポートしていないゲーム

次に、Sun Microsystems がサポートしないゲームを示します。

- Freecell
- GTali
- Gataxx
- Glines
- Gnect
- Gnibbles
- Gnotski
- Iagno
- Mahjongg
- Mines
- Robots
- Same GNOME
- Stones
- Tetravex

---

## カスタマサポート

Sun Microsystems が提供するカスタマサポートサービスは次のとおりです。

URL	説明
<a href="http://www.sun.com/service/contacting/solution.html">http://www.sun.com/service/contacting/solution.html</a>	テクニカルサポートセンター
<a href="http://www.sun.com/service/support/warranty/">http://www.sun.com/service/support/warranty/</a>	グローバル保証サポート
<a href="http://www.sun.com/service/support/software/desktop/index.html">http://www.sun.com/service/support/software/desktop/index.html</a>	ソフトウェアサポートサービス

## インストールと構成のサポート契約

インストールと構成のサポート契約は、契約者が標準インストールを使用していることを前提としています。標準インストールとは、製品の対象範囲に含まれる、あるいは保守用 Web で提供されているパッケージだけをインストールした Sun Java Desktop System 製品を指します。

インストールと構成のサポート契約は、標準インストールに対してのみ履行されません。契約申し込みをした後、契約者が標準インストールを変更した場合、契約者はその事実を速やかにサポート提供者に通知する必要があります。サポート提供者が、インストールと構成のサポート契約の変更を受け入れなかった場合、あるいは、契約者が変更を報告しなかった場合、サポート提供者は例外的に、変更の通知後すぐに、インストールと構成のサポート契約を解除する権利があります。